

山 ゆ り

7-8 月号 No356 2014 年 7 月 1 日

初号発行:1972 年 12 月 25 日

山ゆりの会(尾瀬の自然を守る山ゆりの会)

年会費 2000 円 (郵便口座 00230-2-42601)
〒246-0025 横浜市瀬谷区阿久和西 2-25-16 草野正昭
Tel/Fax:045-364-6515 メール:VZM03024@nifty.com
URL : http://homepage3.nifty.com/yamayuli/



5 月山行 5 月 25 日 丹沢クリーンハイク

天気晴れ、参加者:10 名 大内 大
大内友人 曾根 田村 和田 松田 加藤
稲本 大野 草野

寄やどろぎの集落から茶畑を登りクヌギ山を
目指す恒例のコースをたどる。茶畑の上
のいつも休憩するところに今年もサイハ
イランが咲いていた。さらに今年杉林
の中にキンランとギンランを見ることが
できた。林道に出るとジャケツイバラが
今年も見事な黄色の花をつけていた。

大倉でごみの計量、ビン、缶など燃えないゴミ
10.25kg, 燃えるごみ
2.45kg 合計 12.7kg と今年も頑張った。(K)

●クリーンハイクに何年振りかで参加しました。数年続けて不参加だったのは、登山路にはポイ捨てされたゴミが殆ど無くなっているのと、この時期の丹沢には必ず山ヒルがいて、これの被害に遭いたくないのが最大の理

由でした。

今回は、その直前に同じ丹沢の檜洞丸にシロヤシオを見に行ったら後二日間程、階段の下りで大腿四頭筋にかなりの痛みを感じ、この筋肉を使っていないなー！と思知らされました。近々別の山に行く予定も有るので、なるべく山に行き、足慣らしをしなくては、という訳で。檜洞丸のある西丹沢には、山ヒルはいませんでした。調べてみると、山ヒルがいるのは東丹沢で、西丹沢にはいないこと。更に、市のホームページで、東丹沢では山ヒル対策をしていることも知り、クリーンハイクにも行ってみるかなど。念のために、塩水スプレーと膝丈ストッキングを用意して参加しました。いつもはガラガラのバスが、この日は何故か超満員なのにびっくり。登山路には落ち葉が少なく、対策がされているからかな？と思いました。ポイ捨ての缶やペットボトルは山道には殆ど無くて、林道から斜面に投げ捨てられた物が殆どでした。今回は、山ヒルには幸いにも出くわすことは有りませんでした。

下山後、青空市で買った旬のソラマメが、今日のご褒美になりました。

(松田 雄二)



5/25: クリーンハイク 急な斜面で大物を上げる清掃隊員

特別山行 蓼科山

4月26日ー27日

●GWの始まりは、早起きから始まった。

5時に迎えに行きまーすだけのメール、詳細は聞かず迎えを待った。今回の特別山行は車組と電車組に分かれて出発、車組はちょっと早く出発し、草野亭八ヶ岳山荘で一服することになった事を車に乗ってから知った。草野亭の畑とスネオ君（郵便局で飼われてある犬）と一頻り遊び電車組と合流、1日目は車山を散策。

スキー場でも知られている車山は遮る物もなく、野焼きをしたようで草もキレイに刈られ眺望は360度絶景だった。八ヶ岳に南アルプス、うっすらだが中央アルプスも見ることが出来た。陽射しをタップリ浴びて、明日の蓼科山の足慣らしだ。

今夜の宿は女神湖の近くの「すずらん荘」学生団体客が多い様で食事はボリューム満点のしゃぶしゃぶ、二匹のこれまたボリューム満点の柴犬が出迎えてくれた。

翌日、早朝に女神湖を一周、嬉しいことにザゼンソウや水芭蕉を見ることが出来た。朝食を済ませ、本日のメインイベントの蓼科山へ、雪がかなり残っていたが、車で行ける所まで登り、そこから登山開始。雪といきなりの直登ですぐに顎が上がり大ブレーキ。雪も多いが溶けかけの為、アイゼンの役目も半減、何度も膝上まで潜りながら山頂へたどり着きました。こちら岩はごろごろとアイゼンを付けた靴では歩きづらかったですが、360度絶景で久しぶりに開放感に浸りました。（香取 恵）

●春の蓼科へ日本百名山ダブル登頂！

ゴールデンウィークの前半は、日本百名山の「車山（標高1,925）」と「蓼科山（標高2,530）」に登ってきました。

茅野駅で電車組と合流し出発。このあたりはまだ春、車窓からは雪の八ヶ岳を

バックに満開の桜を楽しめました。やがて車山高原スキー場の駐車場に到着。2月のスキー以来、今年2度目の車山です。ここから登山開始、コースの途中には、ところどころに残雪があり、コースを踏み外すと膝まで埋まってしまう。

山頂は360°の大パノラマで、遠く北アルプスの山々も望むことができました。宿泊は女神湖畔の「民宿すずらん」に、体育会系学生の合宿所として利用されているようで、食事もボリューム満点です。翌朝は、朝食前に女神湖を散策。木道の脇には水芭蕉やザゼンソウが咲いています。女神湖の湖面には逆さ蓼科山が映っていてとても綺麗でした。

2日目、7合目登山口まで車で登り、登山開始。雪が腐っていて登山道を少しでも外れると膝まで埋まる。林を抜けると、將軍平に、昨日オープンした蓼科山荘前で小休止。ここからは森林限界、しかも急登です。前に登った人の踏み跡を慎重にたどる。アイゼンが効かず。何度もズルズル。。。

山頂は雪もなく大きな石がごろごろしていました。八ヶ岳も目の前に望め素晴らしい景色でした。

下山は滑りながらも楽しく下りることができました。帰りは温泉で汗を流して帰宅しました。天気が良くとっても楽しい春の雪山を楽しめました。癖になりそうです。（島 秀子）

●やったね！蓼科山

蓼科山へのお誘いメールが届いたのは、一週間前。百名山・雪山・★★・・・「連れてって〜！」と送信ボタンを押す親指がちょっと躊躇したことは確かです。一日目は早々と民宿入りして宴会だあと思いきや、車山スキー場のおっペンまで追い立てられた私たち。トレッキングシューズを履くのは1月以来。3階まで階段を上るのがシンドイのですから、もうこれだけで限界か！？取りあえず、ここ

で蓼科山とご対面。

二日目の早朝、その山は悠然と佇んでおりました。早朝プログラムの女神湖一周ツアーでウォーミングアップ。しっかり朝ごはんを食べ、宿のスタッフ&柴犬のはるちゃん・うららちゃんに見送られて、いざ山へ！グングン登って、登山口のちょっと手前でスタンバイ。ここでスパッツ装着の指示があったが、私は独り雨具のズボン姿（スパッツの意味を取り違えて持ってこなかったのです。譲ってくれたTチャン、ゴメンナサイ）

バッチリ雪山模様の登山口から覚悟を決めて出発しましたが、内心ドキドキの私。毎回のことですが、ベテランさんたちに迷惑をかけてはいけないとの強い思いだけが一步一步を支えます。早々と、アイゼン装着の指令に一層緊張感が増しました。アイゼンの扱いのレクチャーを受け、練習を重ねて臨んだはずなのに、やはりモタモタする私。（このアイゼンも3年前に嫁いできた。立派に働いてくれましたよ、ありがとうJさん）

どの位の時間歩いたのだろうか？やっと將軍平に到着。本日、初めての休憩という感がありました。頂上までは、もう少し。しかし、目の前に立ちはだかるのは傾度80度？スキー場の超上級者向けコース？本当に登れるのか！出発の伝令が飛ぶ。ウソでしょう！？でも一步一步進むしかない。振り返ったら・・・怖～い！だって本当に絶壁なのだもの。それでもてっぺんに着いたのです。そこは、広くて大きな石がゴロゴロ状態の広場でした。アイゼンだから歩くのが大変。でも、装着する手間を考えると、我慢してそのままがんばります。

蓼科山頂ヒュッテは、まだクローズなのかな？八ヶ岳、アルプス、眼下には蓼科高原・・・贅沢な眺めの中でのランチタイム。塩気がキツイおにぎりが上手い。



短い昼休みを終え、さあ！帰るぞお。でも、ここ降りられるの？滑って降りるの？恐々歩き始める。ふと、プロスキーヤーが滑り降りる映像が目に浮かんだ。最難関のコースを下り、とにかく將軍平へ着いた。帰ってきたあ！とハイタッチしたい気分でしたね。一息入れたら、後はひたすら下るのみ。スタート地点の鳥居で思わずやったあ！と口々に叫ぶ。山のとっぺんを見て、よくぞ登ったと感慨ひとしおです。ちょっとハイな気分かも。後は、温泉で汗を流して極楽極楽。帰宅後もハイな状態が続き、あちこちに登頂紀行をメールに乗せました。が、中には「八甲田山、死の彷徨」みたいなイメージを持ち「危険なことは、辞めてくれ～」と返信が（笑）でも、やはり私には、エベレスト登頂に匹敵するくらいの快挙です。（加藤英子）

4月山行 4月20日

多摩丘陵・万松寺谷ウォーキング

●前回は大雨だったので今日のうらかな春の気候ほっとした気持ちでした。多摩センターからのコースは色々有りますが今回のコースはザ・里山というにふさわしいところで体で目で耳で花でと楽しめた所でした。この季節の木々の緑の多種多様はどこに目をやっても淡く美しい。

まず多摩センターからすぐの江戸時代の庄屋・富澤家に立ち寄りました。桜の花は既に散ってしまいましたがシャクナゲの花が咲いていました。ここは古民家で庭には池をぐるりとめぐらす小道があり大きな岩の上に木の枝が出ていてなんとカワセミが休んでいました。

多摩ニューウータウンはどれほどの大きな里山だったのだろうか。公園と学校と隣接し、さらにスポーツ公園に集合住宅と環境には大変恵まれている。

里山の中は手入れのされているところとそうで無い所があり、そのなんとも言えないものに石楠花の林に出くわしました。30株位は有ったでしょうか、高さが15Mもある満開のピンクと真っ赤な石楠花を見る事が出来てみんなで興奮しました。昔は造園業を営んでいたのですし

よう、ほかにもつつじやさくらもまとまって咲いていました。竹林ではまさに最盛期、家族総出で笹堀りをしていたり、竹の選定をしていたり、湿原でセリを袋にいっぱい採っていたり、早くもカエルの声も聞こえてきました。

お昼は棚田の空き地を借りてのどかに美味しく頂きました。食事後、小野神社を目指していく途中にはバイオトイレも整備されていました。小野神社の近くに新しくできた野菜直売所と休憩所で一服しそのあと車道を鶴川まで歩きました。店内にカトレアの茂る駅前の喫茶店でお茶をして楽しかったねと話しは尽きず良い一日でした。文字ではあの時のことを伝えきれませんね。またの季節を楽しみたい所でした。（和田悦子）

■ 7-8 月山行はお休み

■ 例会の予定

- ・ 7月15日(火)：7月例会
- ・ 8月19日(火)：8月例会

あとがき ・大飯原発の再稼働差し止めをもとめた裁判で5月21日福井地裁は、原発が抱える解決しようのない根本的な危険を司法が認める画期的な判決を下した。再稼働を目論む安倍政権と電力会社が作りだしてきた新たな安全神話を一つ一つ実に丁寧に断罪したすごい判決だ。判決の要旨は次の四点である。①原発は人格権を侵害する。個人の生命、身体、精神および生活に関する利益は、個人の人格に本質的なものであって、その総体が人格権である。人格権は憲法上の権利であり(第13条および25条)日本の法制化でこれ以上の価値は他にない。この人格権を具体的に侵害する恐れのある時は、人格権に基づいて侵害行為の差し止め請求でき、原発再稼働は人格権を侵害するとした。②原発は本

質的に危険。他の技術とは異なり一旦事故が起ると、被害が拡大していくという本質的に危険なものである。③大地震の可能性は極めて高い。全国で20か所とない原発の4か所の原発で想定を超える地震が2005年以降5回も発生している事実をあげて、大飯原発に想定を超える地震が来ないというのは楽観的見通しに過ぎない。基準の700ガルの約2倍の1260ガルまで耐えられるとする関電の言い分に対し、2008年の宮城県内陸地震では4022ガルの地震が実際に起こっている。だから1260ガルで安全という根拠はない。④コスト優先の拒否。大飯原発を再稼働させないとコストが上がり、国富が流失・喪失するという関電の主張に対し、たとえ多額な貿易赤字がでようとも、豊かな国土とそこに国民が安全に暮らせることが国富であり、これを失うことこそ国富の喪失である。・緑が一層濃い季節になりました。

・万緑の中に消えゆく廃校舎 **【K】**